

統計モデリング研究室

(Statistical Modeling)

順天堂大学健康データサイエンス学部・特任教授

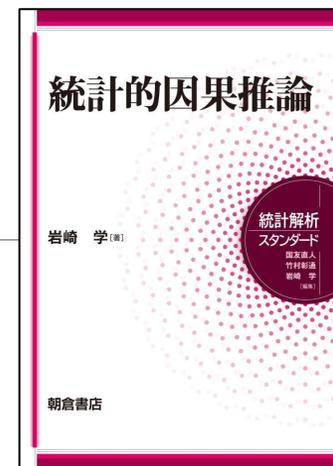
統計数理研究所大学教員育成センター(兼任)

岩崎 学

(IWASAKI MANABU)

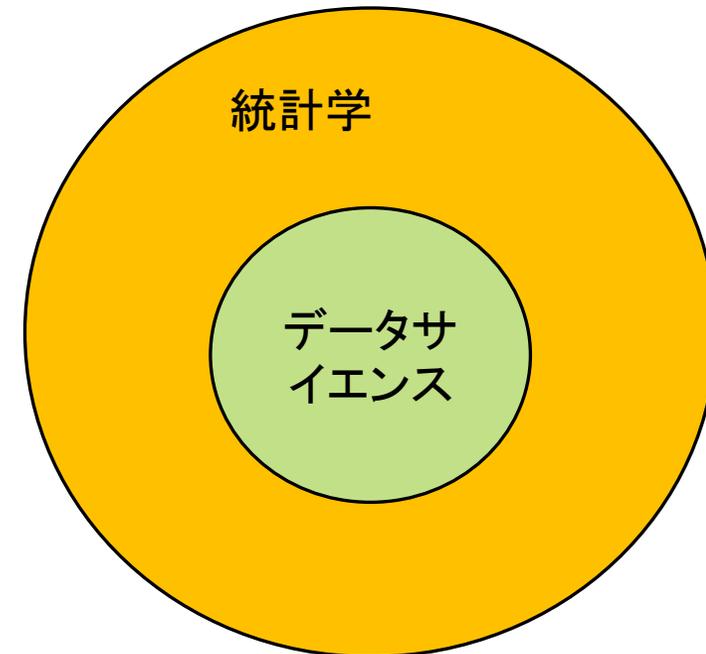
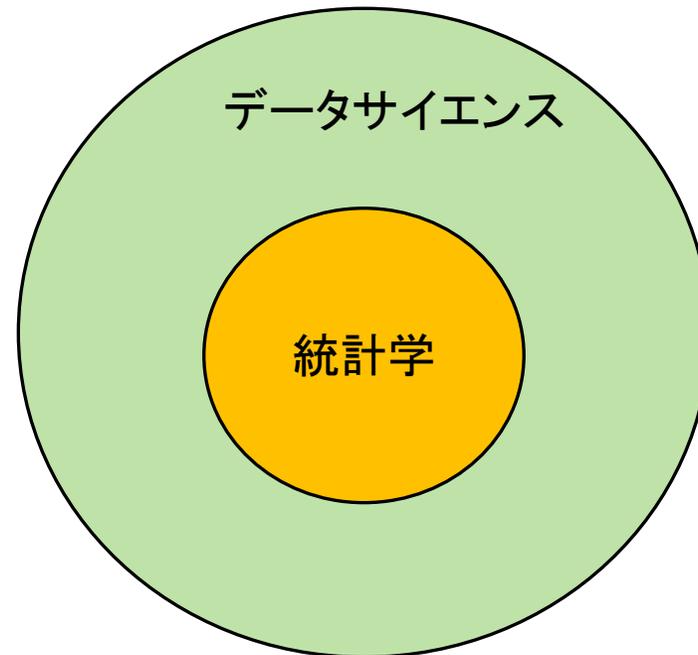
岩崎とは，何者？

- 昭和27年（1952年）12月14日，静岡県浜松市生まれ（71歳）
- 専門：（古典的）統計的データ解析の理論と応用
- 学位：理学博士（東京理科大学）
- 職歴：茨城大学工学部，防衛大学校数学物理学教室，成蹊大学理工学部，横浜市立大学データサイエンス学部，統計数理研究所を経て2023年4月から現職
- 学会：過去に，統計関連学会連合理事長，日本統計学会会長・理事長，応用統計学会会長，ほか統計関連諸学会の理事などを歴任
- 官公庁：内閣府，総務庁，文部科学省，厚生労働省，消費者庁，医薬品医療機器総合機構などの部会員，専門委員を歴任
- 著訳書：『統計的因果推論』，『事例で学ぶ！ あたらしいデータサイエンスの教科書』，『ローゼンバウム統計的因果推論入門』（阿部貴行・岩崎学）．『ヘルスデータサイエンス』（岩崎学 他）ほか多数



統計学とデータサイエンス

- 統計学は、データサイエンスの中核をなす方法論であり考え方
- 統計学は、データサイエンスを包含する幅広い方法論であり考え方
- 医療統計学 Medical statistics
- スポーツ統計学 Sports statistics
- 生物統計学 Biometrics
- 経済統計学 Econometrics
- 工業統計学 Technometrics
- 行動計量学 Behaviormetrics
- 計量心理学 Psychometrics
- 計量社会学 Sociometrics



最近の論文(抜粋)

- Narita, I, . . . , Iwasaki, M, . . . (2022) Hyporesponsiveness to erythropoiesis-stimulating agent in non-dialysis-dependent CKD patients: The BRIGHTEN study. *PLOS ONE*, **17** (11). e0277921.
- 岩崎 学 (2022) 今こそ考える「因果」と「相関」. *応用統計学*, **51**, 43-54.
- 岩崎 学 (2021) 統計的因果推論の視点による重回帰分析. *日本統計学会誌シリーズ*, **50**, 1-17.
- Hayashi, T, . . . , Iwasaki, M, . . . (2021) Initial responsiveness to darbepoetin alfa and its contributing factors in non-dialysis chronic kidney disease patients in Japan. *Clinical and Experimental Nephrology*. **25**, 110-119.
- Iwasaki, M. (2020) Multiple regression analysis from data science perspective. In Imaizumi, T., Nakayama, A. and Yokoyama, S. (eds) *Advanced Studies in Behaviormetrics and Data Science*. Springer.
- 岩崎 学 (2019) データサイエンスと統計的因果推論. *Direct Marketing Review*, **18**, 5-16.
- 岩崎 学 (2017) 変わるテクノロジー、変わらぬプリンシプル. *マーケティング・リサーチジャーナル*, **38**, 133, 10-15.

研究室での活動と実績

- 成蹊大学 (1993 – 2017) 博士: 8名, 修士: 27名, 学士: 257
- 3年生は, **基礎的な統計学の勉強(文献購読)** + データ分析の実習
- 4年生の早い時期に **各学生の希望に応じて** テーマを設定し, 週1回のゼミで報告
- 修論テーマ (抜粋): Exploring Multivariate Binary Data by Classification Trees 傾向スコアを用いた層別によるリスク比・リスク差の評価 傾向スコアマッチングにおける個体間距離の評価 ロジスティック回帰を用いた因果媒介分析 ノンコンプライアンスの下での平均因果効果の推定 見かけ上の non-complier が存在する場合の平均因果効果の統計的推測
- 卒論テーマ (2016): 主成分分析の定式化と実データへの応用 集計データによる個人レベルパラメータの存在範囲の推定 因子分析のモデルと実データへの応用 項目反応理論における項目パラメータと被験者の能力値の最尤推定 集計データによる個人レベルのパラメータの推定 判別関数の性能の研究, 重回帰分析によるテレビドラマの視聴率予測 テストの採点法が解答行動に及ぼす影響の研究 傾向スコアマッチングを用いた検定法の比較 統計的因果推論における平均処置効果の推定量の比較